

まずは町をきれいに

海的环境学習を前にグループごとに自己紹介



製のライターなどです。海外のごみや大きな漁具などが流れ着いていることに驚きました。

太平洋に浮かぶミッドウェー島(アメリカ)には、日本から漂着したごみが全体の6割近くもあり、そのうち約2割が瀬戸内海からきたものだそうです。日本語が書かれている油性のフェルトペンや漁具、歯ブラシなど、明らかに日本製であることが、写真からも分かります。



ごみのない美しい海の大切さを学んだ男木島の大井海水浴場

海の生き物にとって、ごみは生命を脅かす危険な存在です。マグロの胃袋から小さくなくなったビニールのパイプが見つかったり、ウミガメ

が流れてきた網にからまって死んだりしています。町と海はつながっています。小さなごみを捨てるのが、どこかで海の生き物を困らせることになりま。

「かがわseaマスター」の参加者は7月22日、高松市の男木島で「海的环境」について学びま

町だけでなく、山や川もきれいにし、栄養分の多い海をつくることも重要だと学びました。

した。NPO法人アーキペラゴの森田桂治さんが「海ごみの多くは町から来ている。海をきれいにするために、まずは自分たちの町をきれいにすることが大事」と教えてくれました。

(富熊小6年・高木大貴君、志度小5年・水野鶴貴さん、石田小4年・塚本琥鉄君)

海環境

森田さんは、日本の海岸に流れ着いているいろいろな海ごみを持ってきていました。魚を取るための網、カキの養殖に使うパイプや浮き具、韓国



海的环境について森田さんの説明を聞く参加者

助け合いの心大切に

島の活

男木地区連合自治会長 福井大和さんと、彫刻家の大島よしふみさんに、島の生活について教えてもらいました。2人は島の魅力について「みんながいつも声を掛け合って、どんなことでも助け合えるのが一番のいいところ」と声をそろえました。



男木島の暮らしについて説明する福井さん(手前)

男木島の主な産業は漁業ですが、それ以外にもインターネット関連の仕事やパン店、観光客向けの飲食店など、いろいろな仕事があります。私たちが昼ご飯を食べたところも、土曜限定のビアガーデンを営業していました。

で、必ず端から引き上げています」と漁のときの注意点を教えてくれました。生活に必要な物は、ほとんど島内で買えるそうです。重い物を買うときは、通信販売を利用する人も多いとのこと。困っていることとはないか質問すると「高齢化が進んでいるのと坂道が多くあるので、草刈りや水路の掃除が大変です」と答えてくれました。

漁業の中ではタコ漁が盛んです。以前は赤潮などが相次ぎ、あまり取れない時期もありましたが、海がきれいになるとともに回復してきました。漁に出るのは午前4時。大島さんは「たこつぼを真ん中から引き上げるとタコが逃げ出すの

(神前小6年・明石凜さん、善通寺西部小4年・鈴木菜津さん、大野小3年・北尾優典君)

土曜日はビアガーデンに早変わりする漁協の事務所

